



安全運転 キホンのキ

深夜から明け方にかけて多発する死亡事故 適切なヘッドライトの点灯で安全運転

事業用トラックの時間帯別死亡事故件数を見ると、深夜0時を回った頃から早朝5時くらいまでの、深夜から明け方にかけて多く発生する傾向にあります。居眠り運転や集中力の低下、スピード超過、歩行者の発見の遅れなどが事故の要因になっており、この時間帯に運転する場合は安全に十分配慮しなければなりません。また眠気を感じたら、安全な場所に停止し休憩をとることも必要です。今月は、夜間走行時の事故防止のために注意すべきポイントについて紹介します。

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「事業用貨物自動車の交通事故の傾向と事故事例 平成29年9月」



夜間走行 **スピードの出し過ぎや
前方不注意になりやすい**

**危険に十分配慮した
運転を**

夜間はスピードを出し過ぎてしまう傾向に

夜間は昼間に比べて交通量が少ないことや、周囲が暗いため速度感が分かりづらいこともあり、スピードを出し過ぎる傾向があります。

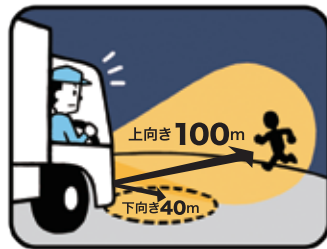
また、車が衝突した時の衝撃力はスピードの2乗に比例して大きくなるため、スピードが2倍になれば衝撃力が4倍にもなります。そのため速度超過で走行しがちな夜間は、死亡事故につながりやすいのです。



ヘッドライトは上向きが原則

ヘッドライトの下向き(すれ違い用ビーム)は前方40m先、上向き(走行用ビーム)は前方100m先の障害物を確認できる性能を有するものと決められています※。交通量の多い市街地を通行している時をはじめ、対向車とすれ違う時や前車の直後を走行している時を除き、ヘッドライトは上向きにして歩行者などに少しでも早く気づけるようにしましょう。

また高速道路でも同様に、他の交通を妨げない限りヘッドライトを上向きにして、落下物や事故車両などを早く発見できる状態で走行しましょう。



※道路運送車両の保安基準の細目を定める告示[2018.02.10]〈第三節〉第198条(前照灯等)

照射範囲に応じた速度で走行

時速60キロで走行している場合、停止距離※は約44mといわれています。つまり、40m先までを照らす下向きのヘッドライトで走行中、前方に落下物を発見してからブレーキをかけても間に合わないということです。ヘッドライトの照射範囲内で止まれる速度で走行しましょう。ちなみに、時速50キロの場合の停止距離は32mであるため、夜間走行時における速度の目安にしてください。

※路面の状態(湿潤・積雪・凍結など)により停止距離は長くなるため、走行時は十分注意してください。

夕暮れ時に早めのヘッドライト点灯で トラックを目立たせる

夕暮れ時は、目が周囲の暗さに十分に順応できず、視力低下を招くといわれています。そのため他車や歩行者は、ヘッドライトを点灯していないトラックに気づくのが遅れたり、スピードや距離を誤って判断したりする恐れがあります。事故を未然に防止するため、早めのヘッドライトの点灯を心がけましょう。

夜間走行時の安全運転のポイント

- ①ヘッドライトは上向きが原則
- ②照射範囲内で止まれる速度で走行
- ③ヘッドライトの早めの点灯を心がける
- ④意識してスピードを抑えるとともに、車間距離も十分にとって走行
- ⑤少しでも眠気を感じたら、速やかに安全な場所に停止して休憩

ヘッドライトの特徴を理解し適切に使い、 夜間走行時の危険を回避！

出典：公益社団法人 全日本トラック協会「事業用トラックドライバー研修テキスト9 危険の予測及び回避」

日野自動車は、先進の安全性能で事故を未然に防止

〈可変配光型LEDランプ※〉ハイビームを自動制御し、夜間の安全運転をサポート。

LEDの点灯と消灯を細やかに制御し、先行車、対向車に光が当たる箇所だけを自動的に遮光。夜間の走行でハイビームを使用しやすくなります。また、夜間の歩行者を発見しやすくなり、「ヒヤリ」の低減に貢献します。



※日野プロフィア、日野レンジャーに設定(一部車型はオプション)

※道路状況、車両状態、天候状態によっては作動しない場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※詳しくは、取扱説明書をご覧ください。